園だより

令和３年１０月１日

社会福祉法人新田保育園
園長　野村　陽子

『かっこいい』

ある日のこと。ぞう組がいるホールにひよこ組が数人覗きにきました。初めは口を開けて見入っていたひよこ組。ぱたぱたっと部屋に戻ると「ぞうぐみさん、なにしているの？」と担任に聞きました。「竹馬大会だよ」と言うと、「ふーん」と答えます。大会という耳慣れない言葉はさて置き、竹馬という言葉に反応し「ぼくたちもぞうぐみになったら、のるの？」と子どもたち。すぐにまた廊下へ飛び出していきました。「がんばれー！」と友だちを応援するぞう組の子どもたちを見て、ひよこ組も真似して応援。全員終わると「かっこよかった！」と目を輝かせ、まるでヒーローに会ったかのように握手を求めると、「おめでとう！」とぞう組の子どもたちへ声をかけていました。

その少し前には、りす組が大縄跳びに取り組んでいました。「10 かいとべるようになったんだ！」と誇らしげに話します。そこで、「大縄跳び 10 回跳ぶところ、誰に見せたい？」と聞いてみました。少しの間があり「ことりぐみさん」と、その子は答えました。お父さんでもお母さんでもひよこ組でもなく、なぜ“ことりぐみさん”なのか考えてみました。ぞう組の子どもたちは自分より大きいので当然大縄を跳べる。ひよこ組は一つ小さいけれど跳べる子がいるかもしれない。かっこいい自分になれるのは、ことり組の前なのかもしれません。

０歳児から５歳児まで一緒に生活する保育園では、この『憧れ』が子どもたちの成長に欠かせないものの一つです。ところが、昨年から続く新型コロナの影響で、異年齢での交流がなくなり、総練習はクラスごとで行うなど、他クラスの様子を目にする機会がぐっと減りました。意図的に機会をつくるにも限界があります。それでも、子どもたちの中にはしっかりと育まれていました。「かっこよくなりたい」という言葉には、憧れているような姿に自分もなりたいという気持ちと、憧れられる存在に自分がなりたいという気持ちが混在していることに気づきました。そして、ひよこ組がぞう組の竹馬大会を見てかっこいいと感じたのは、竹馬に乗る姿だけでなくそれまでの取り組みの過程を認め合い、「ぜったいいける！」「だいじょうぶ！」「がんばれ！」と友だちを信じて声を掛け合う姿にもまた、憧れを感じたからではないかと思うのです。『かっこいい』姿を目指して頑張る姿は、誰の目にも眩しく映るものです。

（文責：斉藤　千鶴子）

10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	給食連絡会（zoom）				健康体育（3・4・5歳児）						りす組個人面談週間	→	→	→	土手写真の日			避難訓練		健診（0・2歳児）		誕生会・秋まつりごっこ・写真の日			ことり組個人面談週間	→	→	→	→		

◆土手写真の日は 15 日（金）に変更となりました。全クラス、クラス単位で土手に行き写真を撮ります

また、この日に予定していた**幼児遠足**は、調理室で作った弁当を園庭・テラス・屋上に分かれて食べる**“遠足ごっこ”**に変更となります。持ち物等はクラスだよりをご参照ください。